

ICT を活用した授業・学習実践の現状と今後の方向性

鷹岡 亮*

Current Situation and Future Direction of School Lesson and Learning with ICT

Ryo TAKAOKA*

This paper describes current situation and future direction of school lesson and learning with ICT. Firstly, I arrange the situation of school lesson and learning with ICT in our country. Moreover, I introduce some projects of the activity of the ICT utilization in the school to realize the understanding of learning and the advanced ICT utilization. Then, I survey some activities about ICT utilization to support the acquisition of competency needed in the new age. Finally I introduce some activities of the learning support and the class support that our society can contribute to in particular.

キーワード：初等中等教育，教育の情報化，情報教育，校務の情報化，情報活用能力

1. はじめに

東京オリンピック開催に向けて、国のさまざまな施策が2020年を目指して進められている。学習指導要領の改訂は、2014年11月の諮問を受けて⁽¹⁾、中央教育審議会（以下、中教審）が、小学校は2020年度（平成32年度）、中学校は2021年度（平成33年度）から全面实施、高校は2022年度（平成34年度）入学生からの実施に向けて議論を進めているところである⁽²⁾。今回の改訂では、2030年の社会を見据えたうえで、学力向上を着実に図りつつ、新しい時代に求められる資質・能力を向上できる初等中等教育の在り方を示すことが求められている⁽³⁾。これまでの学習指導要領には学習目標や内容、内容の取扱いが定められていたが、今回は、育成すべき資質・能力を整理し、その資質・能力を育成するための学習内容に対する指導・学習方法、評価の在り方についても検討し示される予定である⁽³⁾。特に、近年、高等教育において取り組まれているアクティブ・ラーニング（児童生徒たちが、主体的・能動的に、知識や技能を活用して問題を発見し、解決に向けて考えを深めていく学習）

が、新しい学習方法として導入されることが示されている⁽¹⁾。ICTとの親和性が高いことからアクティブ・ラーニングを支えるための道具としてICTが期待され、高等教育同様、小学校から高校に至るまで実践・研究が進められている⁽⁴⁾。

一方、学校教育における情報化への対応が指摘されて初めて関連予算が交付された「情報教育元年（1985年、昭和60年）」から30年、ICTの技術革新によって、教育の世界においても新たなICT活用の時代へと舵がきられ始めている⁽⁵⁾⁽⁶⁾。例えば、直接的・直感的な操作が可能なiPhoneやiPadをはじめとするモバイル情報端末の出現は、児童生徒はもちろん学校教員の活用マインドを変革しようとしている。つまり、これまでのコンピュータ操作に対するフラストレーションを一気に払拭し、教員は操作のレベルで悩むことなく、教員が授業で実現したい機能や学習支援のレベルで悩むことができるようになった。そのことが教員の意識を「行いたい授業」を実現するための教材検索や教材開発へと向けさせようとしている。また、アクセシビリティに関連する技術⁽⁷⁾やNatural User Interfaceの進展によって、アシスティブ・テクノロジー⁽⁸⁾は「書

*山口大学教育学部（Faculty of Education, Yamaguchi University）